

# 第80回 上海博楚簡研究会のご案内

※ 本研究会は、平成28年度JSPS科研費 26284010助成「Multi Disciplinary Approachによる新出土資料の総合的研究」（基盤研究（B））「出土資料と漢字文化研究会」との共催です。

## ・ 成功大学および台湾大学等訪問調査報告

## ・ 燕国陶文に見られる級別監造について

### —長細形陶文印跡を中心に—

発表者 成功大学および台湾大学等訪問調査団

栗躍崇氏(大東文化大学大学院博士課程)

第80回目を迎えた今回の研究会は、調査報告を成功大学および台湾大学等訪問調査団が、研究発表を栗躍崇氏（大東文化大学大学院博士課程）が担当し、最新の情報を盛り込んだ発表をいたします。

つきましてはご多忙中恐れ入りますが、下記の要領で開催いたしますので、ご関心をお持ちの方々多数お誘い合わせの上、是非ご参加下さい。

#### 【訪問調査団報告要旨】

今回の研究会において、科研「出土資料と漢字文化研究会」のメンバーが調査団を結成し、成功大学および台湾大学等を今夏に訪問し、現地の研究者との学術交流と研究調査の成果を報告致します。

#### 【栗氏発表要旨】

戦国時代の燕国は、中原から北に離れた、今の河北中北部及び遼寧西南に位置しました。

文化面では同時代の他国に比べて地域の特徴が顕著であり、その独特の文化は近現代の研究者らに「燕文化」と称されています。燕国故地の出土品では、特に陶文が種類や数が多く、中でも二、三列からなる長細形印跡のグループ的な形式は燕国陶文の代表的な特徴です。これら陶文の形や内容や製造方法は、燕国文化の研究、特に燕国製陶業の研究に素晴らしい文献資料を提供しています。李学勤氏・何琳儀氏、董珊氏・唐存才氏、王恩田氏らには陶文に関する論説がありますが、新出土の燕地陶文が反映されておらず、その認識は不完全であると考えています。

本発表は収集した燕地出土の長細形陶文印跡七八件（完器九件含め）及び燕国に特別に存在している長細形璽印を中心に、璽印と陶文印跡を互いに対照しながら、所有機関名、監造機関名、級別監造などを検討して得られた新知見を報告するものです。

日時：2016年9月24日（土）午後2時～午後5時

場所：日本女子大学百年館高層棟8階815会議室

- 使用言語 日本語
- 参加費 無料
- 研究会終了後、懇親会あり。

連絡先：東京都練馬区中村南1-12-5

東京大学名誉教授 池田知久 電話：03-3926-8568